

第2回さいたま市公民館運営審議会 議事録

1 開催日時

令和8年5月25日（月） 午後2時30分から午後4時00分まで

2 開催場所

さいたま市立生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：10名〉

- ① 若原 幸範 委員長
- ② 磯田 三津子 副委員
- ③ 石井 博 委員
- ④ 太田 祐子 委員
- ⑤ 小林 玲子 委員
- ⑥ 白石 徳一郎 委員
- ⑦ 富田 敏弘 委員
- ⑧ 西形 恵美子 委員
- ⑨ 深田 弘行 委員
- ⑩ 森田 真紀子 委員

〈事務局：17名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|-----------------|-------|
| ① 館長 | 金子 博臣 |
| ② 調整幹 | 岸 聖一 |
| ③ 主幹兼事業・企画係長 | 山田 浩行 |
| ④ 事業・企画係主査 | 蜂谷 香織 |
| ⑤ 事業・企画係主任 | 佐藤 功宗 |
| ⑥ 事業・企画係社会教育指導員 | 成尾 千里 |
| ⑦ 事業・企画係社会教育指導員 | 田山 基子 |

拠点公民館

- | | |
|------------------|-------|
| ① 西 区 指扇公民館館長 | 菅野 剛史 |
| ② 北 区 大砂土公民館館長補佐 | 三城 庄司 |
| ③ 大宮区 桜木公民館館長 | 細井 規夫 |
| ④ 見沼区 大砂土東公民館館長 | 茂木 深雪 |
| ⑤ 中央区 鈴谷公民館館長 | 貫井 直美 |
| ⑥ 桜 区 田島公民館館長 | 舟腰 祐子 |

- ⑦ 浦和区 岸町公民館館長 河原塚 政行
- ⑧ 南 区 文蔵公民館館長 塚越 修
- ⑨ 緑 区 大古里公民館館長 酒井 浩志
- ⑩ 岩槻区 岩槻本丸公民館館長 石関 達

4 欠席者

〈委員：2名〉

- ① 桑原 静 委員
- ② 島田 正次 委員

〈事務局：1名〉

- ① 生涯学習総合センター副館長 大城 冬樹

5 議題

さいたま市公民館ビジョン振り返りの観点について

6 配布資料

- (1) 第2回さいたま市公民館運営審議会（第13期）次第
- (2) 第2回さいたま市公民館運営審議会（第13期）席次表
- (3) 第1回さいたま市公民館運営審議会（第13期）議事録
- (4) 【資料1】各ビジョンの関係性
- (5) 【資料2】さいたま市公民館ビジョンの振り返りの観点について意見交換

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 内容

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 報告

前回会議録について報告を行った。

- (4) 議題「さいたま市公民館ビジョン振り返りの観点について」

「さいたま市公民館ビジョン」の振り返りの観点について「【資料2】さいたま市公民館ビジョンの振り返りの観点について意見交換」に基づき2グループに分かれて意見交換を行った。その後、各グループで意見を集約し、共有を図った。

①各グループのまとめ

ア. 〈A グループ（構成委員：若原委員長、小林委員、富田委員、西形委員、深田委員）〉

（発表者：小林 委員）

まず、人づくりの観点では、市民ニーズの把握を起点とし、その内容を分野別・属性別に整理することが必要であるとされた。その際の視点として多様性が挙げられ、年代・関心・背景の異なる市民に対応した柔軟な学びの提供が求められるとされた。また、ICT 及びオンライン化の活用状況については、その実態を把握し、今後の取組に生かしていく必要があるとの指摘があった。若年層の参加については、情報発信や講座内容のあり方を含め、さらなる工夫が求められる。他に、施設設備の老朽化について、人づくりをしていく場として計画的に対応していく必要が指摘された。また、講座受講が個人的な学びの場としての利用にとどまり、地域づくりや人づくりへの意識を十分に持てていない可能性が指摘され、単なる受講で終わらない意識づけが必要であると考えられる。

次に、つながりづくりの観点では、現代的なつながりのあり方を踏まえる必要がある。SNS や AI の普及を踏まえ、安全性を確保する観点から、公民館職員はもちろんのこと、子どもや保護者世代を交えた情報モラル教育や、専門的な知見を有する人材との連携の必要性についても意見が出された。また、公民館が交流の拠点として機能する可能性も示され、多世代交流の促進や、外国人住民への主に言葉の壁への対応など、多様な背景を持つ人々が安心してつながることができる環境整備が求められるとされた。

さらに、つながりの形成が次の段階である地域づくりへとどのように発展していくかについては、様々な活動を行う人が集まることで地域が活性化するという観点から、これまで地域づくりとしてどのような取組が行われてきたのかについての情報収集が必要であるとされた。同時に、地域団体やボランティアとの共同作業など、直近の事例を把握したいという意見もあった。

これらを踏まえ、今後どのような具体的アプローチを進めていくのが重要であると考えられる。また、公民館は単に学ぶ場にとどまるものではなく、人づくりやつながりづくりができる場であるという認識を、市民に対して周知していく必要がある。

各公民館においては、様々な講座が実施されているが、単発の講座運営にとどまるのではなく、地域課題をテーマとした継続的なプロジェクトとして学びを提供することで、参加者のつながりへの意識を高めるとともに、学びから活動への移行を促進することが期待されるとの意見が出された。

イ. 〈B グループ（構成委員：磯田副委員長、石井委員、太田委員、森田委員、白石委員）〉

（発表者：森田 委員）

さいたま市公民館ビジョンの振り返りにあたっては、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の各視点を横断した評価指標の整理が重要である。基礎的な指標としては、講座参加人数や満足度といった定量的な指標が挙げられた。

まず、人づくりの観点では、講座数といった量的側面だけでなく、講座内容の専門性や学びの深まりといった質的側面も重要であるとの指摘があった。また、公民館を利用したこと

のない層へのアプローチや、講座を契機とした人材の発掘、その後の継続的な学習・活動へのつながりも重要な視点となるという意見もあった。

次に、つながりづくりの観点では、誰もが気軽に利用できる環境整備を前提として、多様な住民への配慮、公民館活動や講座参加後の継続的な利用の促進、サークル活動の発展を支える支援体制の整備などが求められるという意見があった。講座形式についても、講師による一方的な講義だけでなく、グループワーク等を取り入れることで参加者同士の交流が図られる形式が有効ではないかとの意見があった。一方で、交流を必ずしも求めない利用者層の存在にも配慮する必要があると指摘された。さらに、ライフスタイルの多様化に対応するため、夜間講座やオンデマンド講座の導入、若年層や中学生ボランティアの活用による世代間交流など、柔軟な事業展開が有効であるとの意見が出された。

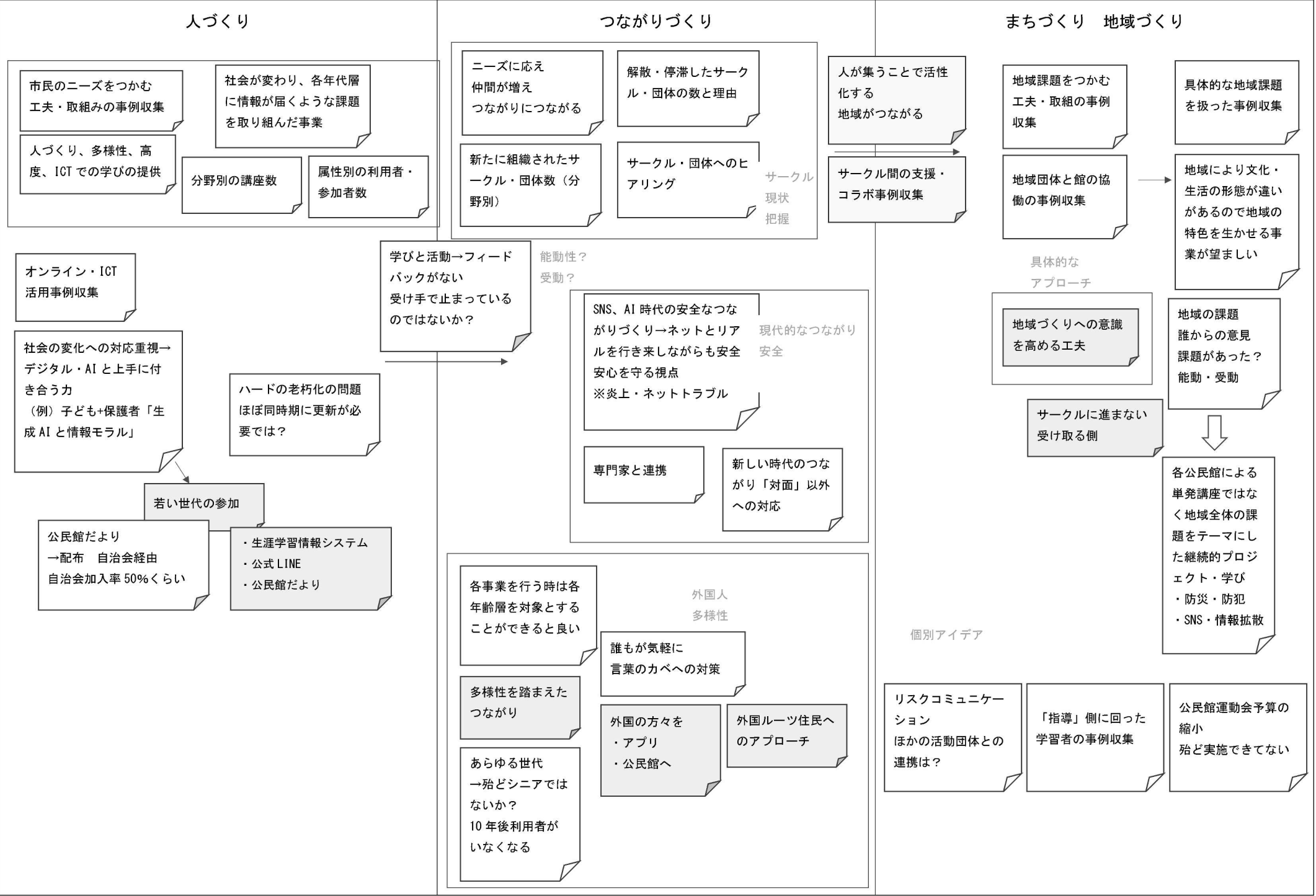
地域づくりの視点では、各公民館における地域課題や住民ニーズの的確な把握が前提となる。地域の実情に応じた事業展開を図るとともに、社会情勢や住民ニーズの変化を踏まえた講座の実施や、地域活動への波及効果を意識した取組が求められるとされた。

また、ニーズ把握についてはアンケートに加え、日常的な対話を通じた継続的な情報収集が重要であり、その結果をどのように事業へ反映しているかを明確にすることが必要であるとの意見が出された。

②本日の総括（若原委員長）

過去の実績評価にとどまらず、将来のあり方を見据えた振り返りとして、各グループから意義のある意見が提示され、次期公民館ビジョンの検討に資するものであった。以上をもって本日の審議会を終了とする。

10 閉会



人づくり

地域に根差した講座を提供し、そのなかでの人材発掘をしていく

チャレンジができたか
(新しい学び)

防犯対策講座

住民のニーズを取り入れるための検討を

社会情勢に対応した事業展開
スマホ教室

公民館事業への参加者人数

公民館事業への参加者の満足度（評価）

市民のニーズに対応した多様なテーマの学び

深い学びを実現する専門性のある人材を講師等にした学習

夜間講座
オンデマンドなど利用者のニーズに応じた開催の検討（実施）

つながりづくり

公民館の利用団体が交流できる場を多く設定していく

地域の人たちが公民館に気軽に来れるようにする

仲間づくりができたか
また、行ってみたいと思えるか

百歳体操
終了後のサークル継続数

公民館利用者の人数

世代間交流の取組状況

様々な世代が交流することで、新たな知を創造できる環境づくり

サークル活動の発展を目指すサポート体制

講座形式だけではなくグループワークを中心とした講座

満足度調査

ボランティアの積極的な活用

若い人と高齢者が交流できる場を

まちづくり 地域づくり

近隣のコミュニティ団体（町会等）との連携を強化していく

地域の課題を明確にしていく

地域の行事に進んで参加、協力できたか

関係機関との連携状況
コミュニティづくり

地域課題ごとの振り返り
地域課題＝地域のニーズ